



新しい朝

府中市立府中第十中学校
学校だより 1号
校長 芹澤 敏光
令和5年4月11日

第44回 入学式 式辞

校長 芹澤 敏光

新入生のみなさん、保護者の皆様、本日は府中第十中学校へのご入学誠にとおめでとうございます。本日ここに、第44回入学式を挙げていくことを大変うれしく思っています。コロナ禍の影響から完全に回復しきれていない形式ではありますが、新入生のみなさんが本日入学したことの大切な意味は何も変わることはありません。本校の教職員・上級生一同、例年にも増して祝福の気持ちを一杯に、みなさんの入学を心待ちにしていました。

さて本校では、教育目標を達成するための、目指す生徒像として、「よく学び、よく考え、元気に実践する」ということを大きく考えています。それを受けて、今年度は、第十中学校での生活の中でこんな生徒に育ててほしいということ、さらに具体的に次の四つの点にまとめています。一つ目は「十中生であることを誇りに思い、努力と誠実さや正義を大切にできる生徒」、二つ目は「世のため人のために尽くすという高い志をもち、そのために自己の能力を最大限に高め、生涯に渡って向上し続けようとする生徒」、三つ目は、十中のスローガンでもある、「明るいあいさつ きれいな学校 時間を守る」を実践する生徒、四つ目は「自分で考え、判断し、行動する生徒」、の以上四つです。どれも中学校生活の中では大切なことですが、入学にあたりこの中から、一番に掲げている、「努力と誠実さや正義を大切にできる生徒」についてまず話しをしたいと思えます。

物事に誠意をもって努力ができるということは非常に尊いことです。特に中学校では、先生方に頼らず、自分たちで考え、計画し、実行することが多くなります。当然困難が伴うこともありますが、目標をもって地道にコツコツと頑張ることで、素晴らしい感動や喜びが待っています。努力が報われたという思い、経験を、ぜひみなさんにたくさん積んで欲しいと思えます。また、一人一人に正義ということがしっかりと心に刻まれていれば、学校の中で起こりがちなじめの問題や、心ない言動によって心を痛める生徒が出てしまうことも絶対に起こるはずがありません。いいことはいい、悪いことは悪い、ダメなものはダメということが自然とにじみ出るようであればなりません。努力と誠実さ、正義は必ず実を結びます。そしてみなさんの心を必ず豊かにしてくれるはずですよ。

次に、中学校入学に際しての、新たな出会いを大切にしてほしいということについてです。現在の社会は、インターネットやスマートフォンなどの急速な普及により、ネットを介して共通の趣味を持つ人を探したり、遠く離れた場所にいる人と知り合ったりすることが容易にできます。それも決して悪いことではありませんが、実際に十中という、同じ場所、同じ空間、同じ環境の中で、人として触れ合いながら生活を共にすることになる出会いを大切にしてほしいのです。そもそも人間は決して一人では生きていくことができません。生まれてから亡くなるまで、何らかの形で人との関わりの中で生活することになります。中学校の中ではそれが非常に密度の濃い、友人関係という形であらわれます。

中学校生活の3年間は、決してうれしいこと、楽しいことばかりではなく、悲しいこと、つらいこと、苦しいこと、思うようにいかないことなどが必ずあります。そのようなときにその感情を分かち合い、乗り越える糧となるのは友人の存在です。ですからいい友人関係を作ってください。「一期一会」という言葉もあります。一生に一度しかないような不思議な出会いや縁のことを言います。中学校時代に形作られた友人関係が、自分の将来や人生を左右する、一生の付き合いになっていくかもしれません。個人的なことになりますが、私自身も、今に至るまで一番深く関係が続いている友人は、中学校1年生の時にたまたま同じクラスとなり出会った人です。ぜひ今日の出会いを大切にしてください。

保護者の皆様、改めまして、本日はお子様のご入学誠にとおめでとうございます。本校の上級生は、3年以上に及ぶコロナ禍の中でも、実に健気に、非常に落ち着いた雰囲気の中で、生き生きと学習、行事をはじめ様々な活動に励んでいます。そのような、上級生の姿を見て下級生が育っていくということが本校の伝統になっています。もちろんこれは保護者の皆様と地域の方々の温かい目とご協力なくして築かれたものではありません。本日で3学年の生徒全員が揃いました。これから一人一人の生徒を大切にしたい教育活動に、教職員一同誠実に取り組んでまいります。

本日入学した116名の新入生の皆さんが、この第十中学校の3年間の生活の中で、将来へ向けて素晴らしい夢を描き、その実現に向けて学校全体で、全力で取り組んでいくことを心に期して、式辞といたします。